

AAS【HPクラス4期生】教材 事例 の部屋「合格者の80分間」

AAS・HPクラス(4期生)事例 の部屋「合格者の80分間」合格者：早坂健治

<私(早坂健治)の事例 >

時 間	私の心の中、感じたこと、考えたこと、実際行ったこと、など
試験開始まで	<p>事例 があまり出来ず少し動揺していました。そのため、試験開始までは特にテキストも読まず、体を動かす等をしてリラックスと気持ちの切替えに専念しました。マーケティング事例が一番苦手のため、なんとか無難の乗り切りたい!と考えていました。</p>
0分~10分	<p>私のはじめの10分間で行う作業は、80分のタイムマネジメントであらかじめ決めていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受験番号、名前の記入 ・ 問題用紙表紙を破く(メモ用紙確保!) ・ 与件文の量、解答文字数を確認する ・ 与件文の一行目を読む(業種や概要の確認) ・ 設問分を読む <p>という作業です。解答文字数を基準として、後のタイムマネジメント(書き始める時間等)を若干微調整します。解答文字数は550字だったので、だいぶゆとりを持って取り組める、じっくり考えてから書き始めようと思いました。</p> <p>設問文を読んで感じた主なことは次のようなことです。</p> <p>第1問 「大手テニススクールに対する差別化」にチェック 第2問 「需要の変動を吸収」から「予約制」を連想(メモを取る) 第3問 与件からの抜き出しでいけそう。簡単そう。 第4問 また30字、難しそう。この事例のキーとなる設問か。 第5問 アイディア勝負か?</p>
10分~35分	<p>10~35分までの間に行うことは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 与件文の読み込み(4色のマーカー駆使) ・ 与件文の構造化(色分け毎に内容確認) ・ 個々の設問の解答を考える <p>という作業です。与件の読み込みで感じたことは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットの飽和から新規事業(学習塾)という、平成17年度と同じような流れであること ・ 地域密着や関係性強化という近年のマーケティング事例の王道のような問題であること <p>というようなことでした。</p>

AAS【HPクラス4期生】教材 事例 の部屋「合格者の80分間」

<p>35分～80分</p>	<p>35分から解答を書き始めました。この段階ですべての設問に対する解答が定まっているわけではありませんでした。時間が来たら書き始めるようにしています。設問の順番どおりに解答していきました。</p> <p>第1問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30字のため書き方に迷った。因果で書きたいが、主語述語を入れると因果で書けない。ここで時間をロスしてももったいないと思い、割り切って主語述語だけ揃えて書いた（今思うと因果で書くべきだった） ・製造業ではないので4Pは気にせず、与件重視から抜き出した。 <p>第2問</p> <p>与件文の「レンタルコート」や「別事業場でもレッスン可能」という点が気になったが、設問分の「需要の変動を吸収する策」＝需要の平準化策と捉え、解答した。</p> <p>第3問</p> <p>書き方に注意した。基本的には与件抜き出し問題。無形資産の3つ目が浮かばず苦し紛れの解答になってしまった。</p> <p>第4問</p> <p>テニススクールと学習塾の「割引」しか浮かばない。3つのうち2つが「割引」になってしまった。このへんがマーケ事例が苦手なところ。</p> <p>第5問</p> <p>内容にはある程度自由度があるだろうと思い、安易に「パソコンスクール」としてしまった。今思うと、「託児所」のほうがよりよい。</p> <p>試験終了後は、合格点ぐらいいは取れた（無難に乗り切れた）かなと感じていました。しかし、今振り返ると事例が一番出来が悪く、ギリギリだったように思います。主語述語を入れたため書き方は綺麗にそろいましたが、今考えると、30字の場合は主語述語は捨て、因果で書くほうがよいと思います。</p> <p>今回は30字の短文問題が大変多かったですが、今後もこの傾向は続くように思います。30字で因果を含めてまとめるのは意外に難しいものです。そのため、今後は30字の書き方の訓練が必要になってくるでしょう。</p>
----------------	--